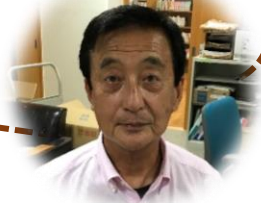


卒業生からのメッセージ

今回メッセージを寄せてくださったのは、現在静岡理工科大学情報学部コンピューターシステム学科で准教授として教鞭をとる高野敏明さんです。紹介するのは数学科伊藤彰朗先生です。

高野君とは、2, 3年を担当し、いまだにずーっとつながっています。ちなみに奥さんは同級生です。彼はいつも冷静沈着で焦ったところを見たことがありません。(頑固だったかな?)興味をもったことを深く追求するタイプであり、友達思いで、何事も安心してみていただける生徒でしたし、部活動も頑張っていました。今後も自分の道に邁進してくれることを楽しみにしています。



<自己紹介>

中津高に通っているみなさん、初めまして。2003年度卒業の高野です。今、静岡理工科大学という袋井市にある小さな大学で情報学部の教員をしています。研究は人工知能・機械学習・ソフトコンピューティングを専門としています。

<高校の自分>

高校の時は、とにかく部活遠征していました。強化合宿によくかり出され、高校生活のほとんどを部活に費やしたと思います。県内の水泳部が少ないこともありましたが、水泳部として結果はそれなりに残したと思います(笑)。

進路の選択は、その当時、腕時計の電池交換を手伝っていたことから、小さな機械に興味があったので電気電子工学に絞りました。あとはどの大学にいても基本は学べると思っていたので、なじみがあり自分の学力に合わせて三重大学を選びました。



部活での一枚(学部生時代)

<大学時代>

大学には、学部4年、修士2年、博士3年と計9年間いました。大学の専門科目は、電子物性、制御工学、プログラミングといった分野があり、そこで出てくる技術をどう利用したら面白いかと勝手に考えて楽しんでいました。そういうことをしていたら、大学院(修士)に行きたくなりました(笑)。親からは、お金の面で苦労させることになりましたが、「行きたいなら行けば？」ぐらいの軽い返事で安心して研究生生活を送ることができました(家族に感謝しています)。

なお、人工知能を学ぶきっかけはたまたま入った研究室で人工知能を取り扱っていたことが理由です。これも利用方法を考えているうちに楽しくなっていました。



ゼミ旅行での一枚(博士時代)



現在の大学で学生と取材を受けている様子(向かって左が高野准教授)

<職業選択>

僕が、今の仕事を本格的に意識したのは、大学院 1 年の終わり(23 歳)の時です。当時は、企業への就職活動をしていましたが、研究会(いわゆる学会)で魅力的な先生たちと出会い、楽しそうな仕事だと思い今の職業を選択しました。この選択によって、さらに 3 年間大学院に行くことにはなりましたが(笑)。ただ、博士進学を師匠に伝えたところ、「僕は勧めない」「正気？」などと言われました、実際、博士号の取得や就職で大変な思いをしたので今なら先生方の意見も理解できます。

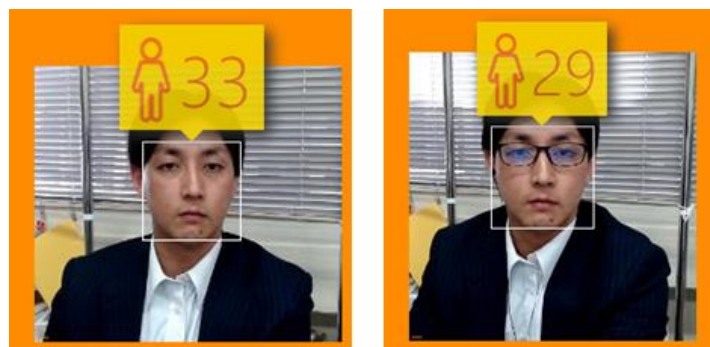
<現在の仕事>

仕事は研究ゼミ、講義、学会活動などを行っています。たまに依頼を受け講演を行うこともあります。研究テーマは、人工知能(AI: 機械学習など)を専門として掲げ、画像処理やテキスト処理などを使ったシステム開発を主軸に学生たちと議論しながら作っています。

仕事でいろんな方と話しをしていると珍しい体験をすることも 있습니다。僕の場合、飛行機のコクピットに同乗して、フライト時の機長さんたちの仕事を見せてもらうことができました。めちゃめちゃ興奮しました。

<伝えたいこと>

実をいうと学生の時は、発電に関する研究がしたいと思っていました。しかし、研究室配属で第一希望とは異なる研究室に配属された結果、人工知能を研究することになりました。この結果が今の僕につながっています。僕がみなさんに伝えたいことは、希望通りにいかないこともあるけれどそこで腐らないでほしいということ。順調な時もうまくいかない時もその時々を大切にしてほしいです。僕のように結果オーライということもありますので(笑)。



Webサイトによる年齢推定



明るくしてみた